

わか草



第40回 平成28年10月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

花火を楽しむ夕べ

今年度も、前半を夏祭り、後半を花火に分けて花火を楽しむ夕べを開催しました。夏祭りでは射的ゲーム、ピカピカヨーヨー釣りの他に、大太鼓を設置して盆踊りを行いました。夏の夕暮れ時、屋外に響く太鼓の音、病棟内では出せない雰囲気があり、大好評でした。花火も連発の打ち上げ花火、勢い良く回る火車、そして、様々な種類の噴出花火を鑑賞しました。

時間の制約や、各部署からの応援職員を頼りに夏祭りや花火を行うため、どたばたしてしまいましたが、皆様に「夏」を楽しんでいただけたよううれしく思います。

(三階西 大隈)



花火を楽しむ夕べ的一幕

- 右上：みんなで盆踊り
- 右中：太鼓を叩く様子
- 右下：手持ち花火の様子
- 左上：大迫力の吹上花火
- 左下：回転花火の競演



入所バスハイク

七月二十七日、二階病棟バスハイクのメインイベントは、アンバサダーホテルのレストラン「エンパイアグリル」でのランチでした。お天気にも恵まれ、中庭での記念撮影の後、店長さんのご配慮で早めに入店することができました。刻み食、ペースト食に対応して下さり、素敵なお皿に盛られた色とりどりのランチを皆様あつという間に召し上がりました。食後はイクスピアリでデザートを食べたり、買い物をしたりして楽しまれました。

(二階西 太田)



バスハイク (エンパイアグリルにて)
素敵なお皿に盛られた色とりどりのランチに舌鼓

リオパラリンピックに思うこと

事務次長 佐藤 峯雄

記憶に新しいところと思いますが、第三十一回オリンピック競技大会がブラジルのリオデジャネイロで八月五日から二十一日までの十七日間開催されました。その後同じリオデジャネイロで九月七日から十八日まで第十五回夏季パラリンピックが開催されました。

このリオデジャネイロパラリンピックには、一五九カ国、四三二名が参加し、二二競技、五二八種目の競技が行われました。胸をわくわくさせたところですが、日本選手は、大いに健闘して銀メダル十個、銅メダル十四個を獲得しました。特に重度障害者の競技ボッチャで、初めて銀メダルを獲得したことは快挙でした。今年のパラリンピックは、チケットの売り上

京大会では、「ぜひ一つ上のメダルを取りたい」と話しをしているの聞き、選手たちの意気込みがひしひしと感じ取ることができました。

◇ 国民体育大会にて

私は何年前のことを思い出しました。国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われている全国身体障害者スポーツ大会に聴覚障害者のバレーボー

ルと視覚障害者卓球の担当役員で、選手団の一員として参加したときのことです。その時は、出発前に王子の東京都障害者スポーツセンターで全ての参加選手が合宿を行い、選手の実力を発揮できるようにすること、選手の間を結ぶことができ、東京の代表選手は、競技へ集中することができ、その集中力の凄さに感動を受けました。

両競技ともメダルを獲得することができ、選手たちと一緒に歓声をあげたことを鮮明に記憶しています。また、競技のあと全国の選手たちとの懇親会もあり、選手たちとの楽しく親睦を図ることができ、大いに盛り上がった大会に参加することができました。

◇ 五年目を迎えて

私も当センターに勤め



通所バスによる送迎の様子 (通所)

て五年目になりました。入職した当時、利用者の重症・重度の症状に驚きました。二十数年ほど前に療育に関わった時と比べて利用者の障害の重さが明らかに重症化していました。特に通所・短期入所の利用者は、人工呼吸器を装着して当センターを利用していただくことが在宅の障害者の方々が重症化していることを感じることができました。当センターでは、いま

まで在宅支援として、短期入所、通所・乳幼児通園、地域療育等支援事業等を実施してきましたが、今年度から保育所等訪問支援事業を開始しました。東部療育センターも開設して十年が経過しました。今後も、これまで培ったノウハウを職員一同、一丸となって入所や通所、さらには在宅の利用者に対して、より良い療育を提供できるように努力してまいります。



オータムフェスティバルの作品 (ちごゆりオリンピック)

総合防火・防災訓練



階段を使った搬送訓練 (通所)

今年も九月七日(水)に、東京湾北部を震源とした大規模地震を想定して全館一斉の総合防火・防災訓練を行いました。お昼には病棟と通所の利用者様に非常食を体験していただき、午後二時の全館放送を台図に震度

六強以上の揺れで電気・水道・都市ガスなどが止まり、続けて津波警報も発令されるという想定で行いました。各病棟では、まず利用者様及び職員の状態を確認、窓ガラスから利用者様を離したり天井から吊り下げている点滴などを移動させたりして安全を確保、余震で引戸が暴れたりしないように固定しました。そして、メインの自家発電設備が停止するようないざという場合に備え、予備の発電機まで電源コードを延長した

り、ポータブル発電機のエンジンをかいたりしました。通所では万一の津波に備え、各所から応援に駆けつけた職員と協力して複数の模擬利用者を三箇所の階段で二階に搬送しました。これには、昨年の訓練の反省を踏まえ、新たに調達したソフト担架を活用しました。そして最後に、通所前の庭園(屋外療育場)にて消火栓(補助散水栓)から実際に水を出して、放水の仕方や水圧を体験しました。当センターでは年間十回以上の防災訓練を行い、その内二回は今回のよう

な全館一斉の総合防災訓練です。これらの訓練の際には大きな音で放送が流れたりして、皆様を驚かせてしまうかも知れませんが、いざと言う時に迷わず行動できるように取り組んでおりますので、ご理解・ご協力くださいますようお願いいたします。(防災対策PT)



補助散水栓の放水体験 (屋外療育場にて)

九月十六日、十七日に北海道済生会西小樽病院津川敏先生のもと、札幌市で開催されました。今回のテーマは「在宅支援のあり方」支援方法と支援内容」のもと、会長講演、招待講演二題、教育講演一題、シンポジウム二題、ランチョンセミナー四題、一般口演百二十六題、ポスター演題一三六題、恒例のフアッションショーと盛会でした。

第四十二回 日本重症心身障害者学会学術集會に参加して(札幌市教育文化会館)

九月二十二、二十三、二十四日の三日間、新潟コンベンションセンターにて第二十二回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が開催されました。学術大会のプログラムとしては、会長講演、招待講演が四題、会長指定講演が二題、教育講演が七題、シンポジウム三題、パネルディスカッション五題、症例カンファレンスが二題、各職種交流集會、ランチョンセミナーが十題、イングリッシュセッションから構成されており、一般演題は日本だけでなく韓国、台湾からもあり、合計七十一題の演題がありました。内容の多くは、高齢者や在宅における摂食の演題が多く、障害児者の演題が少なく、高年齢者が寂しかったですが、内容はとても充実しており、これからの摂食リハビリの参考にできると感じました。(療育部)

た。参加者も、医師、看護師、介護士、PT、OT、ST、心理士、特別支援学校教師、保育士、ソーシャルワーカー等幅広い分野からの参加が多数あり、学会五十年に向けての第一歩を踏み出す年としてふさわしい学会でした。(医長 太田)



一日看護体験の受け入れ



指導看護師の説明に耳を傾ける参加者

七月二十五日、二十八日の二日間に行われ、高校生、社会人の一日看護体験の公募をしたところ、五人の方が参加してくださいました。指導者の下で体温・血圧測定を行ったり、午後の活動を利用者様とともに楽しんだりしました。この体験を通じて看護の道に進もうと



利用者様と午後の活動を楽しむ様子

いう思いを強くした感想を述べていらつしやいました。未来の看護師に期待!! (療育部)

学会報告

七月から九月までに参加した学会についてご報告致します。今回は札幌で開催された第四十二回日本重症心身障害者学会と、新潟で開催された第二十二回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会についてです。



東部あれこれ

七月から九月の話です。

【七月】

七月初めの猛暑の後は、ぐずついた天気が続ぎ、二十八日ようやく梅雨が明けました。二十日はかきもめ分教室の一学期終業式が行われ夏休みに入りました。二十六日に起きた津久井やまゆりの園の事件には強い憤りを覚えますが、これを機に当センターでも防犯体制を強化しました。

【九月】

今年の夏の後半は台風と秋雨前線の影響で雨の日続きでしたが、遠くリオデジャネイロのオリンピック、パリンピックでの日本勢の活躍を応援しました。かもめ分教室の二学期も始まり、学齢児達は楽しく学習に取り組んでいます。また人材育成の一環として、医学生や看護学生、歯科衛生士学生などの実習受け入れも始まりました。病棟や通所、分教室では来月のオータムフェスティバルに向けて、みんな張り切って準備を進めています。



【八月】

八月上旬は猛暑が続ぎ、後半は次々と台風が発生し、



近年、通所登録者が増え、通所日数の調整に対する不安や通所定員の増、施設の整備を望む声が多く出されました。当センターでの定員増は限界があるため、各区の通所施設との併用通所の促進や、施設増については、都や区への働きかけを続けていくことなどを話し合いました。



自由な意見交換を行いました。ご家族からは、新人職員育成への要望や「日頃感じていることなど」活発な意見交換ができました。通所の懇談会は、成人、乳幼児の保護者合わせて十八名が参加され、第三者評価結果や最近の状況などの報告の後、参加された全員の方からご意見をいただきました。

懇談会での意見を参考にし、利用者がより良い生活ができるよう取り組んでいくとともに、ご家族にも安心していただけるよう、引き続き改善・向上に努めてまいります。(事務長 水野)

ボランティア紹介

二階南病棟ボランティア 遠藤 正樹さん

六十六歳、会社員です。六十歳定年退職後、介護福祉士、保育士の資格を取得して、三年前から週一回、土曜日午後の一時間、二階南病棟で絵本を読み聞かせ、行事のお手伝いや四方山話をして

編集後記

夏の猛烈な暑さが続きましたが、後半になると台風が毎週のように到来し、九州・東北・北海道等は、風と大雨による想定外の河川の氾濫・がけ崩れなど甚大な被害を受けています。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。今回の被害についても、川の氾濫が起き、洪水の怖さを改めて認識させられました。今後とも危機意識を持って暮らすことの大切さを思い知らされました。



←これまでのわが草方をご覧になりたい方はこちらからどうぞ